

# 野人の証明

森羅万象、事象の道理を説く野人。  
今、現代人に知っておいてほしい事



著:野人(大塚 隆)

# はじめに

3月11日以降、生きていくためには何が必要かを考えることが多くなった。

豊かさの象徴だったモノや道具は本当に必要だったのだろ？

そんなものをいったん手放し、裸になつたとき、現代人に何ができるのだろう。

自然の中に放り出されたとき、われわれは生きていく強さを持っているのだろうか？

小さな子供が「何で？」「それ何？」と口癖のように言うのは、それをどのように使うのか、という「仕組み」を知りたいからだ。それは生きるための本能にほかならない。

人は大人になるにつれて「何で？」を忘れてしまう。

本能を満たすことより、社会に馴染むことのほうが大事だと教わるから。

生き物本来の価値観から人間社会の価値観へと移り変わり、お膳立てされた情報社会の中では考えることよりも覚えることのほうが重宝される。

「学ぶ」ということはひたすら本を読み、聞いて教わることではない。

何を見て、何を読み取るべきなのか？

「学ぶ」とは、自然界の仕組みや道理を知り、自ら判断できる能力を身につけることである。

この本はそのヒントに繋がるエッセンスを抜粋したものだ。

今、野人の二言一言が心に響く。

野人の言葉は、生きる知恵と力を与えてくれるはずだ。



森羅万象、事象の道理を説く野人。  
～今、現代人に知っておいてほしい事～

# 野人の証明

## Contents

### I01 はじめに

### I04 野人誕生～野人の仕事

#### 野人の証明① 森羅万象の仕組み

##### 農業に関する物理学

- 08 一、植物
- 09 二、大地
- 10 三、共生農法
- 12 簡単で楽しい農業 1
- 13 簡単で楽しい農業 2

##### 養殖に関する物理学

- 14 養殖牡蠣と天然牡蠣の違い

#### 野人の証明② 浮き身

##### 野人泳法

- 19 一、手本はイルカ
- 20 二、アルキメデスの呼吸法と「浮き身」
- 22 三、泳げなかった社員

#### 野人の証明③ 少年時代

##### 食料調達奮戦記

- 25 一、痛い思い出
- 26 二、がっぽり、濡れ手に牡蠣
- 27 三、アケビとジネンジヨ掘り
- 28 四、ウナギ獲りの夏
- 29 五、噛みつく大盛りアナゴ丼
- 30 六、見渡す限り食いもんじゃ

#### 野人の証明④ 自給自足

- 32 一、自給自足の方程式
- 33 二、家庭で簡単に作れるミネラル塩
- 34 三、牡蠣はただでいくらでも捨てる
- 36 四、ワカメ拾いとワカメの見分け方
- 38 五、「アナゴとウナギ」女子供でも簡単に捕獲できる方法
- 39 六、鉄橋の下に潜る
- 40 七、泳げなくても簡単につける黒ダイ
- 41 八、イシダイは「友情」で突く
- 42 九、巨大ムカゴを求めて（密林へ突入物語1-2-3-4）
- 46 十、瞑想 絶品タマゴかけご飯

#### 野人の証明⑤ 健康の極意

- 50 風邪をひく理由
- 51 犬の皮膚疾患と体臭は人災
- 52 口臭の原因は歯磨き粉
- 52 痔は歯磨き粉をやめれば治る
- 53 花粉症を完治させた薬草ブレンド
- 54 単純健康法。素足で歩け！
- 55 野人流、ダイエット理論
- 56 世界一簡単な「水虫治療法」
- 56 生命のサプリメント
- 57 野人流健康法の極意

#### 野人の証明⑥ 子供が野菜を嫌う理由

- 59 肉を好む子供達
- 61 野菜
- 62 歴史
- 63 味覚
- 64 桃源郷
- 65 本能
- 66 本質
- 67 コメ
- 68 生命力の源

### I70 おわりに

# 森羅万象 の仕組み



攻撃があるから護身がある。  
自然界の生き物は動植物を問わずこの護身術を身につけている。

そして生き物は変化する自然環境の中で護身術を磨き、順応して来た。  
森羅万象の仕組みは環境がどのように変化しようがその原理は普遍のものだ。生命の歴史は護身術の歴史とも言えるだろう。

大地の仕組み、植物の仕組み、生命の循環がどのようになっているのか、基本的な仕組みが理解できなければ、それがどのような結果を招くのかも理解できない。

数千年の歴史を持つ農業はいまだそこにメスを入れていない。  
安全・安心とは人類全体の願いであり、責任だと考える。

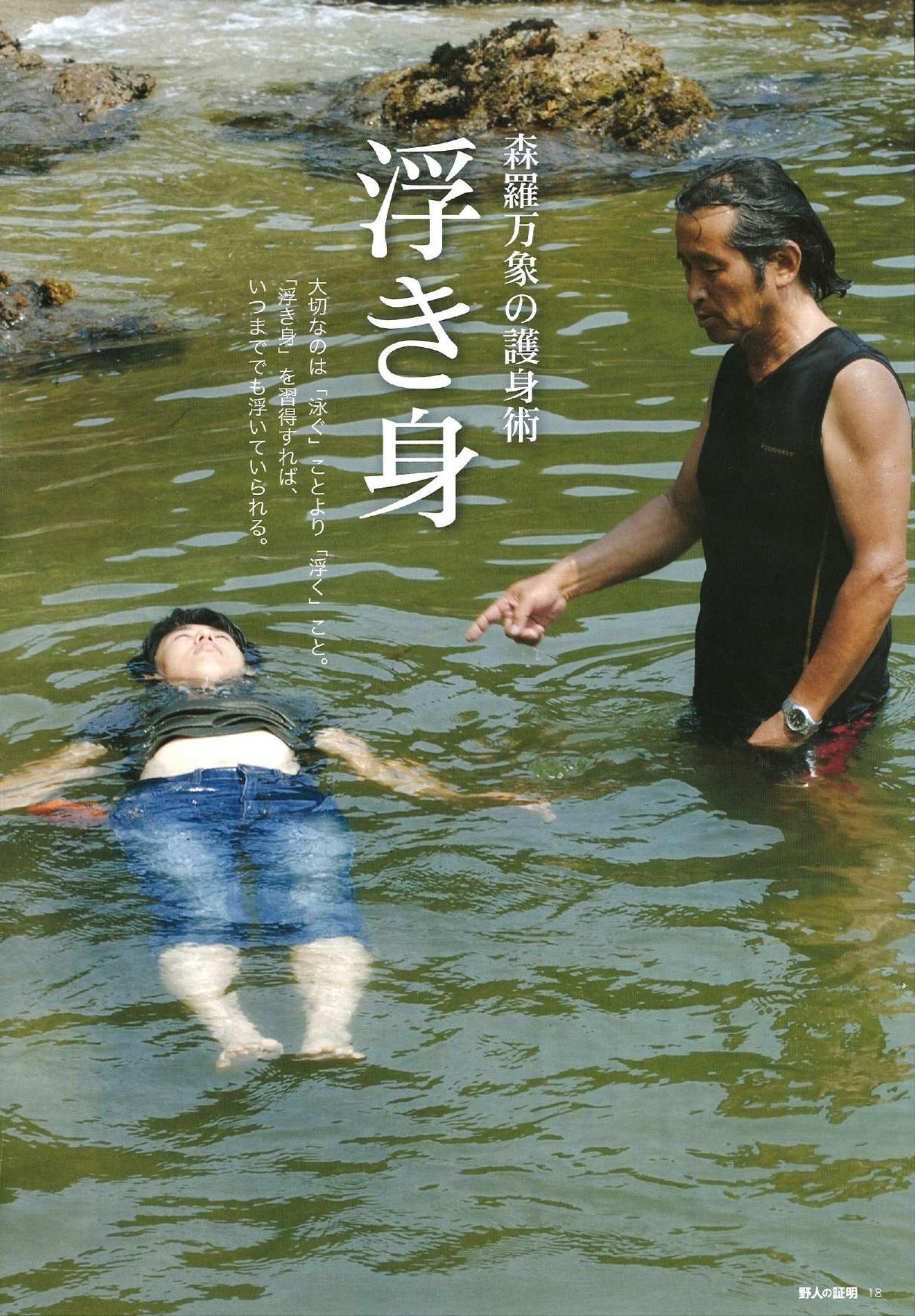
野人

ある夜走る  
人間たちと青天の  
風景

# 浮き身

森羅万象の護身術

大切なのは「泳ぐ」ことより「浮く」こと。  
「浮き身」を習得すれば、  
いつまでも浮いていられる。



# 少年時代

## 食料調達奮戦記

誰もが過ごしたあの少年時代。  
野人が何も特別なわけではない、  
たくましく生きた子供の頃の話を聞いた。

# 自給自足

生きるための基本的な知識。

野人流「自給自足」を学べば力が湧いてくる。

獲つたどー



# 健康の極意

森羅万象の護身術から生まれた野人流  
「健康の極意」に迫る

それは常識の対岸にあつた

毎日非常識な記事を書き続けて5年・・・。思えば随分書いたものだ。変人扱いされ、石を投げられ、罵声に水に砂にいろんなものをかけられ、毎日が針のむしる・・・、世間から白い目や流し目で見られながら、家庭内不和の危機に晒されながらも付いて来た読者の皆さん、ありがとうございます。

森羅万象の生態物理を研究、たまたま道理の答えが

そうなり、辺りを見渡したらそこに誰もいなかつただけ。

共通していることは、すべて常識の正反対だった、

石鹼使う・・・使わん

歯磨き粉使う・・・いらん

洗濯する・・・しない

規則正しさ・・・面倒

栄養バランス・・・単純でいい

運動する・・・せん

汗流す・・・いやじや

入浴・・・海か川

塩分摂りすぎ・・・とれ

もっと野菜を・・・食わん

生活習慣・・・意味不明

これじゃあ野蛮人扱いされてもいたしかたない。しかし、礼状も数えきれないほどいた。風邪・口臭・体臭・口内炎・湿疹・脱毛・水虫・痔・便秘・胃炎・花粉症・アトピー・低血圧・高血圧・倦怠感・うつ・難病・・・治したわけではなく、勝手に元に戻った。資格があれば開業出来そうだ。設備投資ゼロ。実践する方もタダで済む。

常識は文明の産物。文明は間違いの歴史の繰り返し。

忠実に常識を守り病んだのだから、その反対をやれば元に戻るだけ。

そう、元に戻るだけの話なのだ。



# 子供が野菜を嫌う理由

子供達には大切なことを教えてあげたい。

思考の起点と組み立て方である道理の基本がわかれれば後は自分で学ぶことができるはずだ。  
「文部科学省が教えないのならば、わたしが教えてげるしかない」と野人は語る。

